

アイノ・アールトの歩み

● アイノ、1月25日フィンランド（ヘルシンキ）で生まれる
● アイノ生誕の4年後にアルヴァ生まれる
● アルヴァ、2月3日フィンランド（タオルタネ）で生まれる



大学入学時

● アルヴァの母、セルマ死去
● アルヴァの父がセルマの妹、フローラと再婚
● フローラの名前の後のワラフ・フローラ
● Villa Floraの名前の由来



アイノ(右)と姉妹

● ヘルシンキ工科大学を卒業
● 学生仲間とイタリア旅行

● **アルヴァ・ユヴァスキラでアールト事務所開設**

● アイノ、アールト事務所入所
● 対等のデザインパートナーとしての活動の始まり
● アルヴァと結婚、ヨーロッパに新婚旅行
● アルヴァの事務所に入所しても3月後に結婚
● 長女ヨハンナ生れる
● 母としての人生の始まり



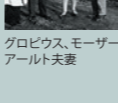
アイノとヨハンナ

● アールト事務所トルクに移転
● マルケウス夫妻との交流が始まる

● 長男ハミカル生まれる
● アールト夫妻、スウェーデン・デンマーク経由でヨーロッパへ旅行
● 工事中のアスブルトのストックホルム市立図書館訪問
● 完成直後のル・コルビュジエの「ガルシエの住宅」訪問
● アルヴァ、第2回CIAM大会（フランクフルト）出席、モホリ・ナギ、ギーテ・オゾン、グロピウスらとの交友が始まる



アイノとモホリ=ナギ



グロピウス、モラーザ、アールト夫妻

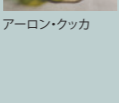
● 悪性腫瘍の手術
● モホリ・ナギ、フィンランド訪問
● モホリ・ナギとの交流はアイノにとりて写真家としての独自の視点を育むことにも影響を及ぼした
● カルフラヒッタラ、ガラス器製造のコンペで、リヒエ・エーメン・クカが2等
● ミラノ・トリエンナーレ「パイミオのサナトリウム」の家具によって国際的な称賛を受ける

● アールト事務所ヘルシンキに移転
● ロンドンの百貨店フットナム・アンド・ロンドンでフィンランド家具展
● この頃アールト家具の輸出が始まる
● アールト夫妻、初めてロンドンを訪れ、モホリ・ナギとロイヤル・パレードを観る
● アルフレッド・コルティン財団の奨学金で、ヨーロッパ建築インターナショナル視察旅行
● アルヴァとアムステルダム、ブリュッセル、パリ、チューリッヒへ、ヨーロッパのインテリア、特にアキスタイルやインテリア素材の視察旅行
● アールト夫妻は日本へ来ることはなかったが、瑞穂亭 吉田鉄郎の著作を通して、日本建築の情報を知る程度得ていた
● アールト事務所設立
● アイノ、アルヴァ、マイレ・グリクセンと美術評論家ニルス・グスタフ・ハールの4人で設立、後にニルス没後、アイノがディレクターとして腕をふるう

● ミラノ・トリエンナーレ「ボルグ・リッック」がゴールド・メダル、会場構成がグランプリを受賞
● アイノはリーヒティのアールト邸、レストラン・サヴォイ、マイレア邸で主たるインテリアデザイナーとして関わる
● テキサスタイルに於いて、独自のデザインを展開



アイノとアルヴァ



アーロン・クッカ

● ニューヨーク万国博覧会のために「アーロン・クッカ」デザイン
● アイノと2人の子ども



アイノと2人の子ども

● アルヴァとスイスへ旅行、アルテックの代理店ウォーレン・ベタルフ社との取引再開
● アルヴァとイタリアへ旅行
● アールト夫妻は終生イタリアを愛した
● 病氣悪化、アルヴァアメリカから帰国
● アイノ、1月13日、死去
● 享年54歳



アイノ

アイノが関わった作品・展覧会



16歳の時の自宅のキッチンスケッチ



学生時代の修練スケッチ



ムンサラ教会のドローイング 1921年



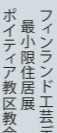
ベネチアのバステル画 1921年

● ヴィアラ・フロロラ
● 主にアイノがデザインした夏の家
● ユヴァスキラの牧師館
● カルストラの医者家の改装
● タバーナハウス



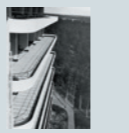
ヴィアラ・フロロラ

● トウリン・サノマ新聞社
● 南西フィンランド農業協同組合ビル



ホルゲブリック

● フィンランド工芸デザイン協会の最小限住居展
● ボイテア教区教会
● ヴィイ・タンメカン
● インシュライト・ヴィイ・コンヘ（北欧建築会議の展覧会）
● ニューヨーク近代美術館（MOMA）
● 「近代建築・国際展覧会」(トウリン・サノマ新聞社ビル選出)
● ガラス器、ボルゲブリック
● パイミオのサナトリウム
● ガラス器、リーヒエ・エーメン・クッカ
● ヴィープリの図書館



パイミオのサナトリウムバルコニー



パイミオのサナトリウムインテリア



ヴィープリの図書館、子ども図書館



リーヒティのアールト邸、外観

● ヘルシンキの「グリクセン邸増築とインテリア・デザイン・リヒティのアールト邸（ヘルシンキ・ムンキニエミ）」

● ス・ニ製紙工場のオフィス、レジャー施設、労働者住宅
● パリ万国博覧会フィンランド館
● 「Le bois est en marche」
● レストラン・サヴォイのインテリア
● ニューヨーク近代美術館（MOMA）
● 「アルヴァ・アールトー建築と家具展」
● ガラス器、アーロン・クッカ
● カルフラヒッタラ邸の家
● ニューヨーク万国博覧会フィンランド館
● ヴィアラ・マイレア



ヴィアラ・マイレア



レストラン・サヴォイ

● M-I-T学生寮ペーカーハウス
● アイノとアルヴァ・アールト25周年記念展
● ヘルシンキ
● 夏の家、キルナ
● ヴィイ・キルマン
● 国民年金協会コナヘ1等

世界情勢と建築事象

● フィンランドディア／ジャン・シハリス
● 議会改革により、普通選挙権、女性参政権

● ロース・ハウス／アドルフ・ロース
● フランク・ロイド・ライト、ヨーロッパでヴァースムート版作品集刊行
● ファクス靴工場
● ヴアルター・グロピウス + アドルフ・マイヤー

● 第一次世界大戦
● ヘルシンキ中央駅／エリエル・サリネン
● ドミノ・システム／ル・コルビュジエ
● ロシア革命
● フィンランド独立宣言
● 憲法を採択、大統領を元首とする
● 共和国となる
● バウハウス開校
● 森の礼拝堂／グンナー・アスブルンド
● ボルテイコ柱と桁の取合の考え方が
● ヴィアラ・フロロラに影響している
● オースランド諸島問題
● 雇用契約法、既婚女性の雇用が認められる
● バウハウス校長室のインテリア
● ヴアルター・グロピウス

● シュレダー邸／ヘリット・リートフェルト
● パリ装飾美術展覧会エスクリ・ヌオオ館
● ル・コルビュジエ
● バウハウス校舎（テッサウ）
● ヴアルター・グロピウス

● 聖アントニウス教会／カール・モーザー
● ヴァイセンホフ・ジードルンダ
● ミーセル・コルビュジエ、グロピウス他
● ガルシエの住宅／ル・コルビュジエ
● ストックホルム市立図書館
● グンナー・アスブルンド
● 第1回CIAM（近代建築国際会議）、スイスのラ・サラで開催

● ウォール街の株値大暴落、世界大恐慌の始まり
● 結婚法
● 禁酒法
● 第2回CIAM（フランクフルト）、テーマ「最小限住宅」
● ストックホルム展覧会
● グンナー・アスブルンド
● 北欧にモダニズムが普及する契機になった
● トウゲンツハット邸
● ミース・ファン・デル・ローエ
● 第3回CIAM（ブリュッセル）、テーマ「配置の合理的方法」
● 満洲事変
● サヴォオア邸／ル・コルビュジエ

● ヘルシンボリ・コンサートホール
● スヴェン・マルケリウス
● ナチス政権獲得
● バウハウス閉校
● 第4回CIAM（ワグネン）、テーマ「機能的都市」、アテネ憲章採択

● 瑞穂亭（ストックホルム国立民族博物館）
● 浮宮谷徳三郎
● フィンランド日本協会創設
● 吉田鉄郎著「日本の住宅」がドイツ語で出版

● カサ・デル・ファッシヨ
● ジュゼッペ・テラーニ
● 落水社
● フランク・ロイド・ライト

● パリ万国博覧会日本館（フランプリノ）
● 坂倉準三
● サントリー幼児稚園／ジュゼッペ・テラーニ
● 第5回CIAM（パリ）、テーマ「建築の工業化」
● マラバルテ邸／アタルベルト・リペラ



夏の家 アスブルンド

● 第二次世界大戦
● ソ連がフィンランドに侵攻、
● フィンランド、フィンランド冬戦争
● ソ連、フィンランドを占領
● フランク・ロイド・ライト
● 日独伊三国同盟
● 「フィンランド雑誌」発刊
● 市河彦太郎「かよこ」フィンランド日本大使
● 森の火葬場／グンナー・アスブルンド
● ソビエト・フィンランド継続戦争

● ソビエト・フィンランド継続戦争終結
● 第二次世界大戦終結
● プロイヤー自邸／マルセル・ブローヤ
● バラガン自邸／ルイス・バラガン
● グラース自邸／チャールズ・グレイムス
● グラース・ハウス／フリードリッヒ・シヨニン

アイノ・アールト
Aino Aalto
1894-1949



● 今回の展覧会で焦点をあてた作品トピックス
● アイノを理解する上でポイントとなる事象
● 青字 アルヴァの歩み
● 緑字 世界情勢
● * 建築作品については、竣工年で記載をした